

山行報告

■夏山①コース 硫黄岳～横岳～赤岳縦走

●日 程：8月20日(水)～22日(金)

●参加者：L 安田 SL 島谷 臼井 小田 木村 笹木 佐野 福原

●行動記録：

(20日)：美濃戸口 11:40 発～美濃戸(13:40 着)14:00 発～赤岳鉱泉(15:30 着)

(21日)：赤岳鉱泉 4:20 発～赤岩の頭(6:35 着)6:50 発～硫黄岳(7:25 着)7:50 発～横岳(10:20 着)10:40 発～赤岳山頂山荘(14:25 着)

(22日)：赤岳山頂山荘 5:00 発～行者小屋(7:20 着)7:40 発～美濃戸(10:30 着)10:40 発～美濃戸口(11:23 着)

◆岩、岩、岩、ハシゴ、梯子、ハシゴ、鎖、鎖、鎖、... 赤岳より怖い横岳

笹木

八ヶ岳集中山行は私には初めてのルート、硫黄岳～赤岳縦走コースに参加させてもらった。心配だった天候は、一週間前から登山指数 A で安定しており不安なく出発できた。

(1日目) 新幹線、JR 中央本線、タクシーを乗り継いで茅野市美濃戸口(1490m)に着いた。下山時に入浴する予定の八ヶ岳山荘に不要な荷物を預けて、今夜の宿、赤岳鉱泉を目指して出発。車道を 30 分歩いたところで、2 日前から入山し、今日硫黄岳から下りてきた上田さんチームと出会う。古来の懐かしい友に会えたようにみんな声を上げて駆け寄った。皆さん晴々としたいい顔をされていた。皆で並んで写真を撮った後、上田さんから「硫黄岳でガスに巻かれたらケルンを辿って下りるんやで」とアドバイスを頂き見送ってもらった。美濃戸からは北沢コースの登山道に入り、徐々に高度を上げて 15 時半に赤岳鉱泉(2240m)に着いた。テント場から見上げると、横岳から赤岳への稜線が高いところに見渡せた。赤岳天望荘と頂上山荘がちょこんと覗いている。明日はあそこまで登るんだと気合が入る。

この宿は入浴できるのが嬉しい。改装されたばかりの檜の風呂に浸かってみんなでワイワイ。夕食は名物のステーキが並んでいてヤッター！が、メンバーの一人が体調不良で、共に食事が出来ないと言う。明日からの山行が危ぶまれたが、ゆっくり休んで朝には改善したようで、荷物を分け持ち予定通り全員そろって出発となった。

(2日目) 朝弁を持って 5 時に宿を出た。いきなりの急登で岩を跨ぎながら一時間も登ると、左手に赤岩ノ頭、右手に硫黄岳から横岳、そして赤岳へ続く稜線が見えた。硫黄岳の下りに等



間隔でポツポツと黒いものが立っており、よく見るとそれがケルンだった。上田さんの言葉がよみがえり、その気遣いに改めて感謝した。赤岩ノ頭の頂上に出て、峰の松目にも寄ってから硫黄岳に進む。硫黄岳の頂上は広々として展望がよく、ぐるり八ヶ岳の全貌が見渡せた。青空の下、天空の縦走路を指で辿りながら、縦走経験のある島谷さんから「あそこが蓼科、あれが天狗岳、ここから続く一番奥が赤岳」と教えてもらう。

硫黄岳では爆裂火口を見るのが楽しみだったが、縁にはロープが張られ近づくことが出来ず、垣間覗く火口は深くえぐれていてまさに爆裂の様相だった。ケルンを辿って下り硫黄岳山荘に着く。この辺りはコマクサの保護地区でロープの内に小さな株が沢山見られた。花期は終わったかと思ったが、ピンクの可愛らしい花を数輪見ることが出来た。



行く手に聳えるデコボコの岩山が横岳だ。その頂上で人らしき影が動いている。「あのゴツゴツの細い岩尾根を登るの？いや、あの中ほどの所から巻いて行くんやわ」等と言っている間に、テッペンから岩を下りてくる人が見えるとみんな覚悟せざるを得なく無口になった。ゴツゴツの岩が張り出した隙間を、鎖を頼りに3点確保で登ったと思ったら、次はほぼ垂直の鉄の梯子が天に向かって伸びている。ステップも高い。リーダーが先行の登山者に他に道がないか尋ねている。鎖の回り道はあるがこの梯子を登る方が楽だ、と聞いて、一人ずつ声を掛け合って慎重に登った。登りきった尾根の反対側は切れ落ちている。自分の足の下に岩を登っている人が見える。足がすくむ思いでとにかく頂上に進む。横岳頂上(2829m)からは、赤岳鉱泉が遥か下に見え、見守るように大同心と小同心が並んで立っていた。それぞれの山頂に向かってしっかりと登山道がある。あんなところにも登れるのかとそこからの景色を想像しワクワクした。

一休みし、赤岳天望荘を目指して下る道も岩と鎖と梯子との戦いだ。こんな道がどれくらい続くのか、リーダーが会う人、会う人に「あと梯子は何個ありますか？鎖は？」と尋ねている。その度に「まだまだありますよ。気を付けて」と返ってくる。皆さん笑顔で8人が下りるのを待っていて下さりありがたかった。三叉峰まで来た。天望荘はまだまだ遠い。その先に赤岳が雄々しく馬の首の様に長く伸びていた。三叉峰から下りてやっと鎖から解放され、下に行者小屋の赤い屋根が見えてくるとみんな笑顔になった。地藏ノ頭を通り抜け、天望荘(2722m)についた時は、もう今日の山行が終わったような気分で、喫茶室でワイワイ、コーヒーを三杯もおかわりした。最高に美味しいコーヒーだった。いよいよ赤岳の頂上めざしてザレ場の馬の背を登る。一時間半で赤岳頂上山荘に着き、みんなでハイタッチ！雲が上がってきていたので荷物を置いてすぐに南峰へ。誰もいない貸し切り状態の頂上(2899m)を満喫した。残念ながら雲に阻まれて遠い北アルプスや富士山は見る事が出来なかった。夕方から風が吹いて強い雨が降ったが、夜中には止んで星空が見えていた。



(3日目) ガスの中を5時に出発。直下の急な岩場を下りてキレット分岐から文三郎道を下りる。文三郎道も切り立った岩場で鎖、鎖、鎖。が、昨日の横岳で訓練された私たちは手と足を巧みに使って楽勝？で下りてきた。岩場を下りると、正面に中岳と阿弥陀岳が大きく聳えていた。赤岳の灰色の岩山と違って緑の美しい山だ。それから梯子のような階段をいくつか下りて、横岳のギザギザ稜線がどんどん高くなり、大同心もシルエットになった頃に行者小屋に下り立

った。ここで大休憩。弁当を食べたり、カモシーのTシャツを買いに走ったり。さあ、あとひと踏ん張り！気合を入れて、小屋の前で、メッセージ板を持って写真を撮った。「山をなめんなよ」⇒『はい、このコースなめていたかも知れません』『本当に山が好きですか？』⇒『はい～、毎度毎度、自分に問うています』



下山の南沢コースは荒れていて、登山道は崩れ、河原に下りて石の間を歩いたり、道なき道を通らなければならなかった。なかなか登山道に出られず、ここでもリーダーがたまに会う登山者に、この道で合っているか、どれくらいで登山道に出られるか、と皆の気持ちを代弁して尋ねて下さった。リボンを頼りに道を探したり、倒木が道を塞いでいたりして、思いのほか時間がかかり、美濃戸に着いたのは11時。昼食も入浴もあきらめて、とにかく12時のタクシーに間に合うようにと急ぎ足で歩き30分で美濃戸口に着く。トイレで汗を拭いて着替えて何とかお迎えのタクシーに乗り込んでホッとしたのか、茅野駅でホームを間違え予定の電車を見送るという事態に。幸い切符はどれも自由席だったので、電車を一本つつずらし一時間遅れで姫路に帰着した。

色んなアクシデントがありましたが、みんな協力して頑張り、全員そろって歩き通せたことは大きな収穫で、とても充実した山行になりました。安田リーダー、島谷サブリーダー始め、同行メンバーの皆様大変お世話になりました。ありがとうございました。



■夏山②コース 天狗岳(2645m)～硫黄岳(2760m)

●日程：8月18日(月)～20日(水)

●参加者：L上田 SL森本 一瀬 黒本 西脇 村上 山下 吉村

●行動記録：

(18日)：渋の湯 12:00 発～パノラマコース分岐(13:05 着)13:15 発～唐沢鉱泉分岐(13:45 着)13:55 発～黒百合ヒュッテ(15:00 着)

(19日)：黒百合ヒュッテ 6:25 発～中山峠(6:30 着)6:35 発～東天狗岳(8:10 着)8:30 発～西天狗岳(8:50 着)9:10 発～東天狗岳(9:25 着)9:45 発～根石山荘(10:25 着)10:35 発～箕冠山(10:40 着)10:50 発～夏沢峠(11:15 着)11:40 発～硫黄岳山頂(13:00 着)13:35 発～硫黄岳山荘(13:55 着)

(20日)：硫黄岳山荘 6:20 発～赤岩の頭(7:15 着)7:20 発～赤岳鉱泉(8:50 着)9:15 発～堰堤広場(10:20 着)10:30 発～美濃戸(11:20 着)11:30 発～美濃戸口(12:35 着)

◆夏山②コース 天狗岳～硫黄岳 大パノラマ満喫！

西脇

8/18 姫路から5.5時間余り、“渋の湯”をいざ出発！緑苔むす石の針葉樹林の道を登って行く。標高は約1900mなので冷涼感で軽快。パノラマコース分岐、唐沢鉱泉分岐を経て登って行く。本日の宿泊、黒百合ヒュッテへは谷筋の登りとなり緑苔むす岩・石の間を一步一步踏みしめて行く。緑に癒されながら順調に到着！

途中、S 夫妻を追い越した。渋の湯から黒百合ヒュッテを目指すとの事。一度は道迷いで引き返し、再度登っている。疲れて、到着が遅れそうとのことだった…。

黒百合ヒュッテでは荷物は1F、寝床は2Fで不便を感じる。寝床スペースはまずまず…。夕食を済ませた後でも…Sさん夫妻の到着気配なし。

8/19 少し風があるが晴天！…中山峠から東天狗岳へ。峠で後からの若者グループ20名あまりに道をゆずる。H高校の山岳部のメンバーで足元は軽く先行していった。

尾根筋にでると風が強く感じる。右眼下に摺鉢池、天狗の奥庭と呼ばれる湿地性の草原を視る。また、右手に蓼科山…等、美ヶ原高原も展望できた。すばらしい情景の始まりです。

東天狗岳、西天狗岳の双耳峰も。そして急な岩場を越えると東天狗岳2640m頂上！

岩礫に覆われた山頂からは絶景パノラマが広がっていた。北八ヶ岳はもちろん、硫黄岳の爆裂火口が目につくとともに赤岳をはじめと



した南八ヶ岳。また西天狗岳の奥には南アルプス、穂高連峰・槍ヶ岳等の北アルプス等々…。

頂上に荷物を仮置きして西天狗岳へ。西天狗岳2646mでも絶景を展望する。

そして、東天狗岳に引き返し、急な岩礫をゆっくりと下る。次に根石岳2603mを下り、根石岳山荘に立ち寄る。営業時間前にてトイレ休憩のみ。山荘の周辺はコマクサの自生地。時期が過ぎて数輪しか観る事ができない。保護地なので電気柵が張り巡らされていた。

箕冠山2590mを越え夏沢峠2430mへ下る。休憩後、最後の登りを硫黄岳頂上へ。

登りはガレ場の連続で、浮石には注意。順路にはケルンが現れ次のケルンをめざして登って行く。やっと硫黄岳2760m頂上へ。大爆裂火口…切れ落ちた断崖には圧倒された。

そして本日宿泊の硫黄岳山荘に到着。…順調！

硫黄岳山荘2650mはS61年8月に当時の浩宮殿下が八ヶ岳登山で泊まれた処。

シャワー室あり…15分/500円、寝床・食堂・トイレ等も清潔。後学の為？シャワーを浴び、ビールとカップラーメンを食す。…リーダーのお勧め通り美味しかった！

硫黄岳山荘では、若者・男女20名強の団体あり。…翌日同じコースで下山するのだが。

あるブライダル会社の山岳部？らしく、山好き社長が率いる。その中に背広姿での男子1名…それが彼の登山スタイルとか。

8/20 朝は霧。出発前に、リーダーの提案で山荘の隣にある「植物群落保護林」にて“高山植物研究会”を実施。…コマクサ、クロユリ、ハクサンイチゲ、ガンコウラン等を観察。岩場に群生する濃い緑色の高さ10～20cmの線形の葉をしたガンコウラン（岩高蘭）が小低“木”だと知った。

さあ出発！本日、下山。ただ硫黄岳への登りがある。霧の中、ガレ場を登り返す。

ケルンが道案内となる、頂上へ到着。そして、硫黄岳の頂上付近の厳しい岩場を下り赤岩の頭へ。赤岩の頭から硫黄岳を振り返ると、厳しい岩礫を目の当たりにした。

霧も晴れ、赤岳等を間近に観たのち下山。

次のポイントは赤沢鉱泉。どんどん下る。途中登りの女子高山岳部らしき団体、また何組かの登山者と出会う。赤沢鉱泉で一服…全員でコーヒを賞味する。美味しかった！

そして北沢ルートを溪流とともに、また横切りながら気分よく下りていく。

堰堤広場からは林道を下る。美濃戸山荘にて休息。休業中だが冷たい水が補給でき、最終の美濃戸口（八ヶ岳山荘）へ。

途中、予想通り夏山①コースの皆さんに出会う。合同写真を撮り、エールを送る。

いよいよ美濃戸口に到着。バンザイ！…リーダーと握手！お疲れ様！

八ヶ岳山荘にて風呂に入る。そして昼食…ビールとカレーセット…美味しかった！

天候に恵まれ、八ヶ岳連峰、南・北アルプス等…の大パノラマを満喫しました！

貴重な体験…山荘泊、美味しい食事等…ができました！

いろいろな仲間（登山者）に会えました！

リーダーさん、みなさんありがとうございました！



■夏山④コース 北八ヶ岳 苔の森を歩く

<ゆっくリズム>

●日 程：8月20日(水)～22日(金)

●参加者：L 藤原 SL 中村 橋本(万) 平石 三木(知) 矢根

●行動記録：

(20日)：狭霧苑 13:10 発～麦草ヒュッテ横(14:10 着)14:30 発～白駒荘(15:24 着)

(21日)：宿 7:37 発～湿原(7:54 着)～ニュー(9:53 着)10:00 発～中山展望台(12:07 着)

12:32 発～高見石(14:23 着)14:52 発～白駒荘(15:47 着)16:12 発～麦草ヒュッテ(16:54 着)

(22日)：宿 7:16 発～中木場(8:20 着)8:28 発～茶臼山展望台(9:27 着)9:44 発～中木場(10:39 着)10:55 発～茶水の池(11:38 着)～宿(11:41 着)



◆神秘的な苔の森、北八ヶ岳

三木(知)

今回、初めて夏山登山に参加しました。

長い間山から離れていましたが、5年前長野在住の友人と初秋の北八ヶ岳を訪れました。まるでもののけ姫の世界の白駒池、高見石小屋から見た煌めく星々、丸山からの大パノラマの眺めなど、それがきっかけで再び山に登るようになりました。

茅野駅からだんだん高度を上げるにつれ、景色が変わっていく。八ヶ岳の山並みがくっきり



見える。カフェ、ロッジや別荘、高原野菜などを横目にS字の急カーブが続く。

ドライバーさん曰く、熊のニュースは聞かないとのこととまず安心。鈴を鳴らして出発する。道路から一歩踏み込むと突然空気が変わり、そこかしこに美しい苔が群生して目を奪われる。明日、宿泊する赤い屋根の麦草ヒュッテが見えてきた。年々、高山植物が早く咲くようになり、期待してなかったが色とりどりの高山植物が咲いていた

白駒荘に到着。大正11年創業、今年で100年迎えるとのこと。美味しい濃厚なソフトクリームで乾杯(?)私は最初にオーダーして、大きくてびっくりしたがだんだん小さくなっていった。お風呂も入りボリュームある高原野菜たっぷりの夕食をい

ただいた。

白駒荘、7:30 出発。今日も快晴。昨晚の雨で苔の緑がみずみずしい。木々の間から光が差し、何種類もの苔の緑のグラデーション。息を呑む美しさである。



ニューの山頂は岩峰になっていて、北八ヶ岳には珍しく遠方に富士山を望むことができると聞いていたが、残念ながらガスっていて見ることは出来なかった。しかし、森の中にぽっかり浮かぶように見える白駒池は神秘的だ。

中山展望台からは、蓼科山、天狗岳が見えた。高見石までの道のりは下りだけど、大きな石がゴロゴロして大変歩きにくい。高見石小屋14:16着。喫茶は14:00でクローズ。以前来た時名物の揚げパンを食べることが出来なかったから、今回は絶対に食べると楽しみにしていたが残念。私は高見石は登らなかったが、皆は小屋の裏手のゴロゴロ岩を登って白駒池を見に。曇っていたが綺麗だったとか。白駒荘で預けていた荷物をパッキングして、今宵の宿麦草ヒュッテへ。

国道としては日本第2位の標高2127メートルの場所にあり、メルヘン街道沿いなので、混んでいるかと思っていたが、静かでゆっくり休むことができた。

昨夜も雨が降ったので、滑らないように気をつけながら歩く。苔の美しさはもちろん、キノコもたくさん見ることが出来る。針葉樹の苔の中から顔を出していた色とりどりのキノコには癒された。キノコのことは全く分からないが、鑑賞するのは楽しい。

シラビソの林の中を登っていく。茶臼山は山頂を示す標柱がなければ通りすぎてしまいそうな頂であった。展望台から晴れていたなら北アルプス連峰、八ヶ岳の峰々が見えるとのことだが、ガスで見えることは出来なかった。

登ってきた茶臼山の霧が晴れて西天狗、東天狗を見ることは出来た。最後の下りに気を引き締めて11:40無事に麦草ヒュッテに到着した。

天気恵まれて、原生林や苔の森、幻想的な世界で過ごした3日間でした。リーダーはじめ、仲間に支えられて充実した山行でした。ありがとうございました。



■夏山⑤コース 美し森～赤岳～阿弥陀岳～美濃戸口縦走 <アルプ>

●日 程：8月29日(金)～8月31日(日)

●参 加 者：L尾内 SL高島 春本

●行動記録：

(30日)：美し森登山口 7:05 発～美し森山(7:19 着)7:22 発～
羽衣池(7:55 着)8:02 発～賽の河原(9:10 着)9:22 発～
(10:56 着)11:30 発～扇山(11:46 着)11:58 発～主尾根
(16:09 着)16:10 発～赤岳(16:39 着)～赤岳頂上山荘
(16:44 着)

(31日)：赤岳頂上山荘 5:00 発～赤岳(5:02 着)5:09 発～中岳
(6:12 着)6:17 発～阿弥陀岳(7:11 着)7:35 発～不動清水(9:10 着)9:17 発～
御小屋山(9:55 着)10:05 発～美濃戸口(八ヶ岳山荘)(11:30 着)



◆気温30℃から7℃、そして40℃

春本

22時大阪東梅田の夜行バス出発時点で30℃と8月末の猛暑の夜から、中央道長坂高根IC
6時過ぎでタクシーに乗り換え八ヶ岳高原大橋を渡るところに赤岳が観えてきた。

濃い緑の山容は夏山の姿で大好きで、自身は初めてのエリアです。関東近郊でスキーでもあ
まり馴染みがないので八ヶ岳と言ったら赤岳しか思い浮かばなかったのです。

小梅線清里駅から並木道を行くと美し森、1475mからスタートです。

1542mの展望台からは富士の山がベストスポット。朝の爽やかな笹藪に行くこと数分で水気
の無い羽衣の池の周りは独自の紫の花が咲き、さらに進むとリフトの音が聞こえてくる。清里
テラス 1608mから 1903mの賽の河原までのスキーリフトが動き出したところ。

ここで口に入れる休憩をとり 2323mの牛首山へ向かう真教寺尾根です。牛首山では昼食とハ
ーネスを装着、祭りのマワシの様に本腰をいれ気合をいれる。ここまでとここから同コース
の登山者は自分たちを含めても10人にも満たない。

程よい気温だったのがだんだんと急登になると体が熱くなってくる。2356m扇山で雉撃ちの
時の尿を見てビックリ！先ほど食べたドライフルーツの鮮やかなオレンジ色、体調は良いはず
なのに休憩多発でペースが落ち頂上に着く時間が遅れるとリーダーが山小屋に電話する。

鎖場では一人ずつしか使えない、石鎚山の様な急坂で長く普通の細い鎖。もうここまでくれ
ば後へは引けず必死で這い上がる。リーダーとTさんとで助け合って何とか16:39今日の
ゴール頂上山荘に着いた。夕食同席した若者からも難コースと知らされる。

山小屋の黒板には夜は7℃と記されていた。ぐっすり寝てしまう。



頂上や山小屋でご来光待ちの人があったが
ガスが出たので中岳 2700m阿弥陀岳 2805mへ
向かう、朝日に照らされたモルゲンロートが
綺麗で思わずシャッター。

昨日と同様の鎖場を昇るが、対向の上から
降りてくる人達が待っているので休む間もな
く一気に登らされた感で1時間すこしで阿弥
陀岳に登頂。



ガスも晴れここからの眺望を楽しむ、槍・穂高・乗鞍・御岳。中央・南アルプスの山々富士が良く観えた。東に赤岳なので 360 度とはいかなかったがこれから登る人にも言えるほどの眺めでしたよ。

下山途中の不動清水と云う水場 2248m だけ寄らずに御小屋山 2137m へ、少しペースを上げ美濃戸口 1491m に着いたのが 11 時半前。

自身はよく地名やコース名の意味を考察するが、賽の河原・牛首山などおどろおどろしい、お寺など無縁なコースの真教寺、小屋もなかった御小屋山、

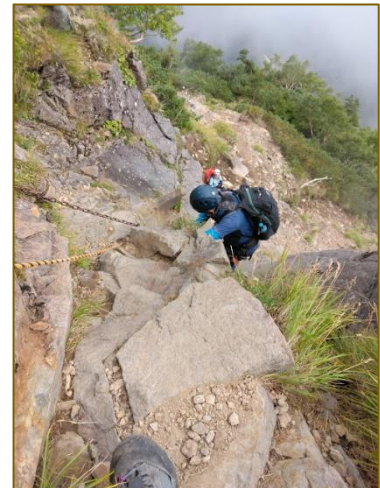
赤岳頂上にあったお寺の卒塔婆の様な物が下りのコースに所々あったのが課題で気になります。親切な女将さんの八ヶ岳山荘のお風呂・牛乳でリフレッシュ・クールダウンしたが。名古屋駅ホームの待ち時間の暑さは再びお風呂に入ったよう、帰宅後のニュースは名古屋が 40℃ と日本最高の 8 月末日でした。

◆赤岳真教寺尾根を登って

高島

今年の夏山は、初めてアルプとしての初体験の夏山でした。事前情報として、リーダーから URL が送られてきてそれを確認すると、頂上直下の岩場の厳しそうな事がどの山行記録をみても書いておられ、厳しいと言うことが分かりました。元々、私は高所恐怖症で吊橋も岩場も苦手でした。が、奥穂高岳に行く前に、雪彦山の垂直岩場で事前トレーニングをし、前穂高・奥穂高岳に行き、槍ヶ岳に行き、少しずつ三点確保をすれば大丈夫と言うことが分かって来ました。大きな山に行くには、岩場通過が必ずあります。そこを通過出来ると、今まで見たことのない素晴らしい景色と出会えて、自分がここまで歩いてこられた満足感と、一緒に助け合って歩けた仲間への感謝する感動が 60 歳を過ぎても感じられ、また次の山へと思いが強まるのです。

今回の真教寺尾根は、クライミング要素が強いので、事前トレとしてリーダーが篠見四十八滝の山行を計画して下さいました。大きな長い岩場では、ここを赤岳と思って登ろうと言いながら登りました。が、本当の赤岳はその 10 倍位の岩場でした。8 合目 9 合目は全て鎖かロープで主尾根分岐まで気が抜けませんでした。三点確保をしっかりとする、を合言葉に、先頭のリーダーがコースを取って下さったルートについて行きました。



今回は、夜行バスで現地入りをした為、十分な睡眠がとれない中の長時間歩行で、歩き始めはかなりしんどかったですが、岩場が現れてからはアドレナリン全開で無我夢中でよじ登りました。他の人の山行報告を読むと、槍の穂先をレベル 1 とすると、レベル 1.5 位だろうか、そして真教寺尾根の核心部は、クライミンググレードとしては 5, 6 とかになるだろうと書かれていました。それが登れたので、また次のステップへと心が踊ります。

これからも、歩荷トレ、長距離トレを行い、大きな山に謙虚な気持ちで望みたいと思います。リーダーの尾内様、メンバーの春本様、ありがとうございました。

■国民平和大行進

●日 程：7月13日(土)

●参 加 者：L 須増 上田 大谷 黒本 砂川(延) 砂川(美) 森本 山本(正)

●行動記録：高砂市役所(9:30 集合)10:00 発～＜行進＞～姫路市大塩サービスセンター(11:30 着～昼休憩)～山電大塩駅 12:35 発→＜電車で移動＞→山電飾磨駅北側(12:45 着)14:00 発～＜行進＞～姫路市役所(15:00 着)15:30 発～＜行進＞～大手前公園 16:00 着＜集会後・解散＞ 注：記載時間は概略



高砂市役所スタート前



姫路市役所を出発（写真提供：森本さん）

◆感想

須増

昨年に比べると全体の参加者は少なかったようですが、今年も暑かったです。飾磨駅の出発時刻が原水協（姫路地区）の都合により、労山に連絡無しで、予定より1時間遅い14時に変更されていた為、待たされました。